

「先生は体育会系だと思うのですが、とっつきにくいと思われた経験は？」

平成30年5月9日

●ゆうじさんからの質問

自分は、結構体育会系だと言われていますが、西田先生もそういう感じですね。なのでそこそこ話が合うのかなとは思いますが、西田先生、私も経験ありますがとっつきにくいと思われたことあるのでしょうか？是非ご意見を聞かせ下さい。

●西田昌司の答え

私のどこが体育会系だと思われるのかよくわかりませんし、私は体育会系ではありません。

体育会系とはすなわち軍隊系とも言えますし、上官が「右向け右」と言えば有無を言わず下官は右を向くしかありません。私が下官であれば「上官、そうおっしゃいますが今の状況を考えるとそれは得策ではありません」とはっきりと返しますし、納得のいかないものはやりたくないタイプです。ですから私は体育会系ではありません。

もちろん、体育会系のように皆が一致団結しなければ組織が成り立たないという面もありますし、私はそういった意味で体育会系を否定してはいませんが、向かう方向が正しければ体育会系は素晴らしい組織力を発揮する反面、逆に間違った方向となると組織は一気に破滅の道を進むことにもなりますから、要はバランスが大事であります。

体育会系からすると私は理屈の多い男と映って疎ましく思われるでしょ

う。一方、世の中には体育会系とは真逆に理屈の好きな方々がありますが、私はそういった方々に対しては「あなた方のおっしゃる理屈もわかるけれども、全体を俯瞰すると今はそういった理屈をひとまず引っ込めてこうした方が良いのですよ」とやってしまいます。すなわち、私は理屈のない人と理屈の多い人のどちらからも疎まれるタイプでして、そういう意味ではとっつきにくいと思われるのかもしれませんが。

人間、自分のこだわりの部分にだけ目が行ってしまって視野狭窄に陥りやすいものですが、世の中には自分の知らない様々なことがありますし、しかもケースバイケースでそれらの優先順位が変動するという非常に難しい状況の中で我々は生きているのです。ですから、ある状況下で自分の意見が受け入れられなかったとしても他人に憤慨したり自分を卑下したりといったことにエネルギーを注ぐ必要は全くありませんし、最初から世の中はそのようなものだと達観すればたいにのことは乗り越えられるものです。

体育会系の人はある意味、そのような境地に辿り着いた人とも言えますし、私は体育会系の人大好きです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>